

平成30年度 学校自己点検評価結果

学校法人 札幌青葉学園
北海道看護専門学校

1：教育理念・目的・人材育成像

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	2.8	本校では、看護師を養成する施設としての理念、目的、目標を定め、育成人材像を明確にしおり、教職員共通の認識の下で学生の教育・指導を行っている。
(2) 学校における職業教育の特色が表われているか	2.8	理念、目的において、目指すべき看護専門職者としての在り様を明記し、目標において指標となるべき事項につき、具体的に7つの項目に分けて標記している。
(3) 教育理念・目的・人材育成像は社会のニーズに合っているか	2.8	開校から7年目の今年度に、開校後の実績や社会の変化を勘案し開校当初の理念目的、目標を見直し現在のものに変えた。
(4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	2.3	理念、目的、目標、特色については、学校ホームページや学校案内、シラバスに明記している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、学生便覧を使用し周知している。また保護者に対しては、保護者懇談会においても説明を行っている。将来構想については、文書化していないので、周知の方法と合わせ今後の課題である。
(5) 学校の将来構想は示されているか	2.4	教育理念・目的・人材育成像等を通し、本校が目指す構想は示されているが、将来構想として、文書化されていない為、検討する必要がある。

2：学校運営

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	2.6	目的・目標に向けて、毎年運営方針を策定し、それに基づき事業計画も理事会の承認を経て策定されている。
(2) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	2.6	学校の運営組織の中に、細則に規定された意思決定機関として学校運営会議を置いており、意思決定機能は有効に機能している。また、全教員が参加する教務会議を月2回開催、および部門ごとの連絡会を随時開催することにより、情報の共有化を図っている。
(3) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.5	人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。やや評価が低いのは、給与表について、今年度後半に公表となった事が影響していると思われる。
(4) 各組織の意思決定システムは整備されているか	2.5	学園においては理事会を中心とした意思決定システムを整備しており、学校単位では意思決定機関としての学校運営会議がある。 各部門における稟議から決裁までの各段階での承認についてもシステム化し実行している。
(5) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.3	ホームページ等を利用して随時情報発信を行っているが、職業実践専門課程で求められているレベルには達していないため、今後はホームページ等を利用して積極的に情報公開を行う必要がある。

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(6) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	1.8	学園内クラウドによる情報の共有、業務の管理等、一部情報システム化等による業務の効率化が図られているが、更なる効率化を図るためのシステムの導入を検討する必要がある。
(目標の設定等)		
(1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.8	教育理念に沿ったカリキュラムを編成している。平成30年度より開校以来のカリキュラムを実績等を基に一部改正し実施している。今後は、教育課程編成委員会での議論等も加味しカリキュラムの編成を定期的に見直す必要がある。実施方針は、毎年度策定され明示されている。
(2) 各学年に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.8	学年別到達目標を明確に示している。またカリキュラム上の学習時間も法令で求められている時間数を上回っており学習時間は確保されている。
(教育方法・評価等)		
(3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.7	法令に基づき基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野に分け、各分野とも密接に繋がり、体系的に編成されている。
(4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.4	高校を卒業して間もない若い世代が多い事から、医療人としての心構え等を育成出来るようなカリキュラム、教育方法を検討する必要がある。また、教育課程編成委員会の効果的な運用を図り、教育方法の工夫・開発にも努める必要がある。

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	2.3	今年度より関連分野の団体、病院の役員等から成る教育課程編成委員会を組織し、年2回の会議を開催するようにした。委員会からの意見を基に、カリキュラム等の改善、見直しを図て行きたい。
(6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか	2.6	病院を中心とした臨地実習を合計で23単位行い、実践的な職業教育を行っている。
(7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	2.8	学生による授業評価を行っており、授業の改善を図っている。今後は教員間での評価体制を確立し、より一層質の高い授業を目指す。
(8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.6	これまでは、実習先や外部講師の方から個別に意見を伺うだけで、体系的に外部からの評価を取り入れる仕組みは構築されていなかったが、今年度より学校関係者評価委員を組織し、学校評価を実施し、学校全体として組織・運営の改善を図っている。
(9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2.8	これらは「成績評価、単位の認定及び卒業に関する規定」に明記されており規定を遵守している。進級については、単位制の主旨から規程を設けていない。
(資格試験)		
(10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に位置づけているか	2.8	国家試験対策担当の教員を配置し、各学年計画的に模擬試験等の対策内容を策定し実施している。また、クラス担任の調整役として今年度から学年調整者を置き、各学年の学修状況に応じて、各種学力向上策を実施する体制を整えている。

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(教職員)		
(1.1) 教育理念・目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.6	専任教員、非常勤講師ともに要件を満たした教員を確保している。
(1.2) 関連分野における業界連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等の取組みが行われているか	2.4	第一線で活躍している医師・看護師をはじめ、大学等から優れた講師を招き本校の教育に協力をいただいている。専門基礎分野の一部の科目において、複数の講師により授業が分担を余儀なくされている現状があり、今後の課題となっている。
(1.3) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.2	教員研修規程を設け、研修の参加費用の助成等を行い、教員に求められる能力等を高める為の環境を整えつつあるが、予算上の制約もあり十分とは言えない現状である。また、平日は授業や臨地実習先への引率等の通常業務があり、研修に参加する場合は、休日または通常業務の合間となる事も多く、時間の確保も課題となっている。
(1.4) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.4	今年度、学内研修を2回開催した。更なる内容の充実を図ることとしたい。また事務職員用の研修も今後検討したい。(1.3)同様に、時間の確保が今後の課題でもある。

4：学修成果

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 就職率の向上が図られているか	2.7	求人情報の公開はもとより就職ガイダンスの開催等、就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来100%である。
(2) 国家試験合格率の向上が図られているか	2.7	3-(10)で記載の体制を整えている。また、必要に応じて、全教員が協力、分担し放課後等の空き時間も利用し指導に当たっている。国家試験合格率は、毎年全国平均を上回る高い合格率となっている。また、不合格となってしまった既卒学生に対しサポートも行っている。
(3) 退学率の低減が図られているか	2.3	問題解決の為、学生および必要に応じ保護者との面談を行っている。今年度からは、クラス担任の他に学年調整者を設置し、学生一人ひとりの動向を細かく把握し、教員全体の連携を強化することで学生のサポートを行っている。しかしながら、看護師への志望動機が曖昧であったり、職業観の形成が未熟な学生についての指導については、課題が多いと認識している。
(4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.1	卒業生時に実習先に就職した学生については、教員が近況や評価を聞くことがあるが、積極的・定期的には実施していない。それ以外の卒業生についても動向を把握しきれていない。学校からのアンケート調査や同窓会等を通じて、卒業生の勤務状況等を把握する必要がある。
(5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	1.9	昨年、卒業生にアンケート調査を開校以来初めて実施した。回収率が5%程と低かったが、貴重な意見・提言等があった。これらについて、組織的に教育活動への活用には至っていない。アンケート調査の定例化や実習先に就職した学生等、状況が把握しやすい卒業生へのヒヤリング等を実施し、教育課程編成委員会等の意見を勘案し教育活動の改善を図る必要がある。

5：学生支援

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	2.8	各クラス担任及び教職員全体での学生に対する細やかな就職指導体制が整備され、有効に機能している。また、教員による個別の指導、支援のほか、学校内での就職ガイダンスも実施している
(2) 学生相談に関する体制は整備されているか	2.6	主に各クラス担任が学生相談の窓口となり対応している。過去、カウンセラー認定資格者による相談体制を整えたが、1年間利用実績が無かった為廃止した経緯があるが、学生が利用しやすいカウンセリング体制のあり方を検討し実施をする必要がある。
(3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.3	日本学生支援機構の奨学金、その他各種奨学金の案内や助言およびサポートを行っている。また、社会人に対しては、専門実践教育訓練給付金制度の認定校として該当者に対し支援を行っている。さらに学生の家計事情によっては納付金の分割も認めサポートしているが、これだけで十分であるとは言えないため、学校独自の奨学金給付制度等を確立し、一層の支援体制を整えたい。
(4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、健康管理担当教員および学園本部の養護教員による健康管理への指導、健康相談等を行っている。
(5) 学友会が円滑に活動するための支援体制がある。	2.7	学友会担当の教員を選任し、共用ではあるが学友会用の部屋を提供するなど、学友会活動のサポートを行っている。
(6) 課外活動に対する支援体制が整備されている。	1.8	課外活動自体が、臨地実習などカリキュラムの関係上時間的な余裕がなくかなり困難な状況のため、現状課外活動は行われていない。学友会が設立された事を踏まえ、今後は、学友会等の支援体制を一層強化するなど、課外活動に取組む環境整備が課題と考える。

5：学生支援

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(7) 保護者と適切に連携しているか	2.6	各学年毎年、保護者懇談会・個別相談会を開催している。この他に必要に応じてクラス担任が中心となり個別に面談を行っている。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差、多様性が広がる状況において、保護者との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であるため、今後も定期的な保護者との連携の機会を設け、家庭と学校で協力して学生をサポートできる環境を目指す。
(8) 卒業生への支援体制はあるか	2.3	卒業生から要望があった場合には個別に対応する状況で、組織的な体制は整っていない。同窓会との連携を含め、体制を整備していく必要がある。
(9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.4	入試方法に社会人入学を設けている他、専門実践教育訓練給付金制度認定校の取得および札幌市ひとり親家庭自立支援給付金（親側の学びの支援）利用者へのサポート等、社会人が学べる教育環境整に努めている。 今後は社会人在校生のニーズを調査し、独自のサポート体制について検討する必要がある。

6：教育環境

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 施設設備・教材教具・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.0	<p>学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。しかし、日々進歩する医療についてより新たな情報を学ぶ為にも、最新の専門書の整備等、蔵書については見直しの必要がある。また、教具を含めた設備・備品面においても、経年劣化等が見込まれることから、計画的な更新・補充を行い充実させていく必要がある。</p>
(2) 学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	2.4	<p>実習指導者会議などを通し、臨地実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。しかし、実習施設が多岐・多数にわたるため情報共有・連携の均一性に一部差が見受けられる。今後はこの差をできる限り少なくなる様なシステム作りなどが必要がある。</p>
(3) 防災に対する体制は整備されているか	2.6	<p>施設設備では十分に整備しており、定期的に消防設備点検（年2回）、消防訓練（年1回）を行っている。しかし、防災用品の備蓄、安否確認方法などに課題もあることから、今後さらなる体制のを強化等に努める必要がある。</p>

7：学生募集

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 高等学校に対する情報提供が行われているか	2.3	<p>学園広報室が広報活動の一環として各高等学校を訪問するなかで行っている。また、学校ホームページにて情報の提供を適宜行っているが、一層の情報公開・提供が必要と考える。さらに、出身高校への学生の状況報告について、学生本人の声が届くような手法も検討し、学校訪問を定期的を実施するなかで、情報提供を行っていきたい。</p>
(2) 学生募集活動は、適性に行われているか	2.6	<p>文部科学省・入学者選抜実施要項に基づき、学生募集活動は適正に行われている。</p>
(3) 学生募集活動において、国家資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	2.9	<p>学校案内等において記載し、最新の情報については、ホームページ上で公表している。これら以外にも高等学校訪問、進学相談会、オープンキャンパス等で伝えている。</p>
(4) 多様な選抜方法と学生の状況について検討しているか	2.8	<p>北海道の地域医療に貢献できる看護師の育成を特色としており、選抜方法に地域指定推薦制度を設け、また、社会人のニーズにも対応できる様、社会人入学を設けている。さらに、一般入学については、前期日程、後期日程と時期をずらした選抜方法を設けている。今後は、指定校推薦制度の内容や試験科目の見直し等を課題と捉え検討したい。</p>
(5) 学納金等は、妥当なものとなっているか	2.5	<p>学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や臨地実習経費等を鑑みて、適切な金額設定としている。</p>

8：財務

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	1.9	<p>近年、学園姉妹校の入学者の減少等により、財政基盤はやや不安定になっていたが、昨年からの経営体制の刷新や入学者の増加により、財政基盤の安定化が図られている。今後も学園全体での入学者の確保と、支出の見直しを行い、より一層の財務基盤の安定化を図る必要がある。</p> <p>評価が低いのは、財務関係の情報開示がなされていない事が一因と考えられる。(以下の(2)～(4)の評価の評価項目について共通。)</p>
(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.0	<p>予算、収支計画は、理事会、評議員会で審議され、作成されている。年度ごとの予算の執行内容は妥当である。</p>
(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	2.1	<p>会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。</p>
(4) 財務情報公開の体制整備はできているか	1.9	<p>学園の財務情報については現在、公開は行われていないが、2019年度内に公開予定。</p>

9：法令等の遵守

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2.8	専修学校設置基準、看護師学校養成所指定規則、看護師養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営がなされている。
(2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.6	個人情報保護のセキュリティ対策について、教職員間で注意喚起・情報の共有を図っているが、現在は明文化された規程がないため、今後は規程の整備を行う必要がある。
(3) 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか	2.5	自己点検・評価の実施を昨年度から本格的に実施し、学校関係者評価委員会も今年度初めて開催した。問題点等を認識し、改善に向けて取り組む体制を整えている。現在、公表は行われていないが、この度の自己点検・評価結果、および学校関係者評価の結果については、すみやかにホームページ等を利用し公表する。

10：社会貢献・地域貢献

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1.9	<p>外部からの要望により、学校施設や教材の貸し出しを行った実績はあるが、積極的には活動していない。教員への講師派遣等の依頼については、できる限り要望に添うことにしている。</p> <p>社会や地域への貢献について検討し、積極的なアピール等を通し、一層地域から信頼される学校を目指すことも重要と考える。</p>
(2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1.9	<p>ボランティア情報については、掲示し案内しているが、学生の自主性に委ねている。カリキュラム上時間的な余裕がなく行うのは困難な状況であり、奨励、支援に至っていない。今後は学校行事としてのボランティア活動を企画し、学生が参加しやすい環境作りについて検討する必要がある。</p>
(3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.0	<p>(1) 同様に積極的には行っていない。今後、中学生によるキャリア教育プログラム（上級学校訪問）等の受入れなど、学校として何ができるのか検討する必要がある。</p>